

2013年度 第8回 煙制御計画小委員会 議事録(案)

記録担当 中濱

A. 日 時 2014年1月15日(水) 18:00~20:00

B. 場 所 建築会館 302会議室

C. 出席者 山田主査, 森山, 山口, 峯岸, 鈴木, 油野, 山名, 平田, 広田, 長岡, 中濱
計11名(順序不同, 敬称略)

D. 提出資料

No.8-1: 2013年度 第8回 煙制御計画小委員会 レジюме(山田主査)

No.8-2: 前回(12/12)議事録案(中濱)

No.8-3: 煙伝播防止性の評価(案)(山口委員)

* 改訂煙本の最終チェック原稿は, プロジェクターにて表示させ審議を進めた。

E. 審議事項

1. 前回議事録案の確認(資料No.8-2)

・ 前回(12/12)の議事録の確認を行った。特に問題なく, 了承された。

2. 情報提供(資料No.8-1)

- ・ 建築学会が幹事で安全工学シンポジウムの準備を進めている。開催は7/10~11日を予定。
- ・ 7/10に建築学会の吉野会長が講演予定。防火関係では, 清水建設の野竹氏にOSを依頼中。
- ・ 日建設計 平田氏の本小委員会への参加手続き中。3/13防火委員会で承認予定。
- ・ 2年に1回, 活動成果報告が必要。3/18, 本小委を含む防火関係の公聴会予定。聴講自由。
- ・ JAFPE 防火技術者認定募集予定(2月下旬)。

学歴, 業務・研究実績, 保有資格, 小論文, 面接などで審査される予定。

小論文は, 既発表の防火関連論文・評論等で代替も可(ただし単著のもの)の予定。

3. 改訂煙本の最終チェック

<1章: 長岡委員>

- ・ 特に大きな変更点はない。
- ・ 機械排煙設備は日常稼働しないため「維持管理が必要」と記述したが, 「故障の発見が遅れる可能性がある」に修正した。

<2章: 山田主査>

- ・ ρ 積算値の評価基準に関する文章を見直した。
- ・ 「暴露」は「曝露」に修正。事務局が「及び」「および」に変更。法文は「及び」に戻した。

<3章: 森山委員>

- ・ 1頁全体を修正したところがある。ただし, 内容に大きな変更はない。
- ・ 一部, 業者の校正段階で図が壊れた。図の修正を行う必要がある。

<4章: 峯岸委員>

- ・ 表現がくどい部分を修正した。1/10の日付が最終版。ストレージにUP済み。

< 5 章：鈴木委員 >

- ・ 字体のイタリック，ワードの絵を修正した。
- ・ 「熱放射」という言葉はあまり聞かないが，「輻射」「放射」の表現に統一する。

< 6 章：中濱 >

- ・ 業者の校正段階で，図の一部欠損，計算式の位置ずれなどが発生，修正する必要があった。
- ・ 盛期火災時の火災室-外部空間への流出量については計算内容をチェックして記述するか否か検討する。

< 7 章，付録：山田主査 >

- ・ 特に大きな変更点はない。

4．講習会関連

- ・ 現在申込み数は 6 名。事務局から各社へ案内を送付する予定。各委員も広く宣伝する。
- ・ 発表用パワポは，発表者が 2/18 までに委員会ストレージに UP する。次回委員会（2/19）にて内容打合せを行う。
- ・ 2/25 に事務局へ PDF 化したパワポ案（A4,6 枚構成）を提出予定。
- ・ 前回講習会で使用したパワポは，今回発表者へ送付するとともに，委員会ストレージの「20140305 指針講習会」フォルダに UP しておく。
- ・ 執筆に係った委員には改訂煙本が 1 冊贈呈される。ただし，講習会では発表者以外には費用（9000 円）が掛かる。
- ・ 講習会後にお疲れ様会を開催予定。講習会不参加でお疲れ様会のみ出席 OK。

5．煙伝播防止性の評価（案）（資料 No.8-3）

- ・ 現在，日本消防設備安全センターを事務局に，消防設備の別棟扱いにおける緩衝帯のあり方・評価の検討を進めている。
- ・ 旧 38 条時代において東京消防庁が定めた基準があるが，どの程度の合理性を確保するか基準がない。今回，リスク評価に基づく案を作成したので本小委の委員の意見を聞きたい。
- ・ 評価対象となる接続部は，隣接ブロックとそれに繋がる緩衝帯の 3 室である。そこに，SP 設備や防火設備，排煙設備が設置される。
- ・ イベントツリーを用いて，これら設備の作動不作動を考慮して 32 ケースのシナリオを想定。東京消防庁の評価シナリオよりも厳しい条件のシナリオも生起確率としては大きい。
- ・ 限界煙層高さや隣接ブロックからの火災による緩衝帯への発熱速度の与え方など，いろいろと考えるべき内容がある。
- ・ 火源発熱速度を計算で設定しているが，イベントツリー上で 300kW を基準値とした理由は何か。
東京消防庁の評価シナリオにおいて，SP 作動で 300kW を目安としていたため。
- ・ 令 8 区画と同等性能が必要と考えると，2 時間耐火が前提となる。防火設備が 2 時間まで耐えられるかという課題がある。

当時は 2 時間耐火の壁があったが，建基法の改正でなくなった。2 時間耐火である必要はな

いのでは。また、等価火災継続時間で 1 時間となることで説明できないか。東京理科大学が水を噴霧した防火設備の効果を比較した実験をしているので参考になるかもしれない。

- ・ 32 ケースもシナリオがあるが Excel ベースで計算シートを作成すれば、設定値を変更するだけで一度に評価が可能となるかもしれない。
- ・ 作動不作動の設定値をどう与えるかが課題である。最近、月刊フェスクで消防現場での設備作動に関する記事があった。ただし、排煙設備の作動の記述はなかった。消防も活動時に排煙設備を作動させると外気が導入され、活動環境が変化するのを避けるため、わざわざ排煙設備を作動させることはしないと聞く。
- ・ 前回打合せでの土屋氏の不燃扉の開口率、JAFPE の性能設計委員会、今回の煙伝播防止性の評価については、本小委員会で継続審議としていきたい。

次回の委員会は、2014 年 2 月 19 日（水）18:00～20:00 まで、本会会議室で開催します。

議題 (1) 講習会発表用パワポの内容確認・調整

(2) 情報提供 等

資料を提出される方は、あらかじめサーバーに(委員会用オンラインストレージ)にアップするか、当日準備(15 部)して下さい。

・ 委員会用オンラインストレージ：<http://www.aij.or.jp/commstrage.html>

・ 利用方法：http://www.aij.or.jp/jpn/databox/2013/how_to_use_online_strage.pdf
